

2018年 樹勢調査を終えて 第2ブロック

記 小迫悦子

本年は樹周計測も加わったので例年にも増して時間がかかるし、まれにみる酷暑だから無理をせず3回に分けて調査を実施することにした。(7月31日樹周計測、8月11日左岸実施、8月18日右岸実施)

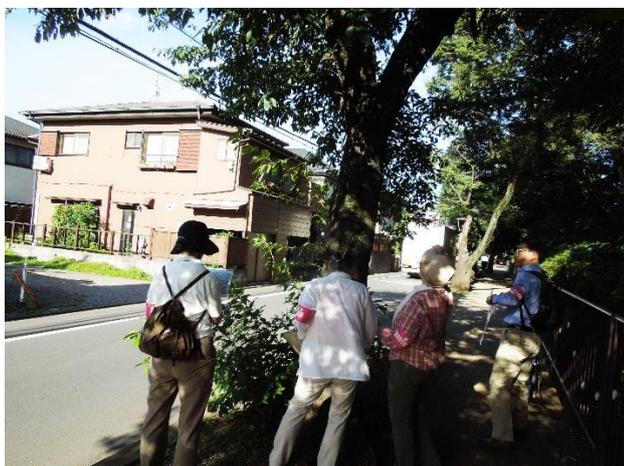
8月18日(土)早朝7時に小金井橋集合で始める。時間を早めたおかげで予定より参加者が増え、池和子さん、竹前直子さん、小島秀治さん、小迫邦彦・悦子の5名の参加となり大変心強い。特に初めて第2ブロックに来て下さった小島さんは身軽で、柵内の桜樹の樹周計測を担当して下さい本当に助かった。今までは小迫邦彦さんの仕事だったが、昨年末の怪我以来杖に頼る身では柵内に入れなからどうしようと悩んでいたのだった。多分事情を察して事務局の方々がご配慮下さったのだろうと感謝する。



柵内計測中の小島さん



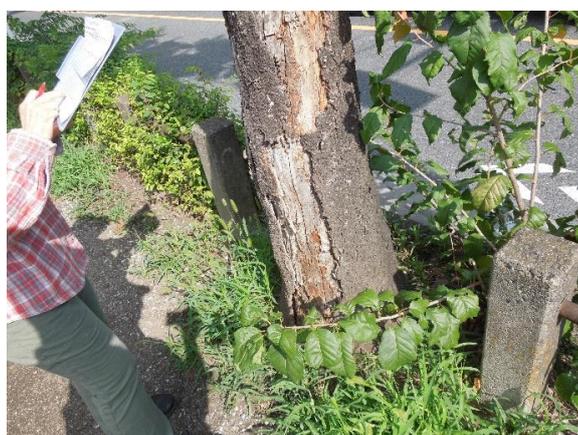
柵越えの勇姿！



左から池和子さん、竹前直子さん、小迫悦子、小島秀治さん（小迫邦彦 撮影）

今年は酷暑だったからか全般的にキノコが少なく、コスカシバは激減と言ってもいい。柵内の雑木の伐採や剪定も功を奏しているようで日当りのよくなったものも有る。おかげで昨年より全般的に評価の点数が良くなり、評価のランクも上がったものがある（評価2が7本増え、評価3が6本減り、評価4が枯死1本含むものの1本減った）。

とは言え、枯れた大枝伐採があつての点数も有るので桜樹そのものの状態が良くなったわけではない。1本1本を見ると幹や根元の腐朽は進み、主幹をバツサリ切られた桜樹まで見られ目を覆いたくなるものがあった。



右岸の遊歩道は整備されていて清々しく、すれ違う散歩中の人たちも心地よげで、私たちに声をかけ 樹勢調査だと聞いてご苦労様と労ってくれた。



幹、根元の腐朽 No. 252



No. 240



No. 227



No. 238 幹の腐朽、根元の腐朽とヒコバエ



No. 955 のコフキササルノコシカケ、樹上は枯れ幹も痛々しい



樹上が枯れた No. 226



No. 211



No. 181



No. 272 の蟻巣



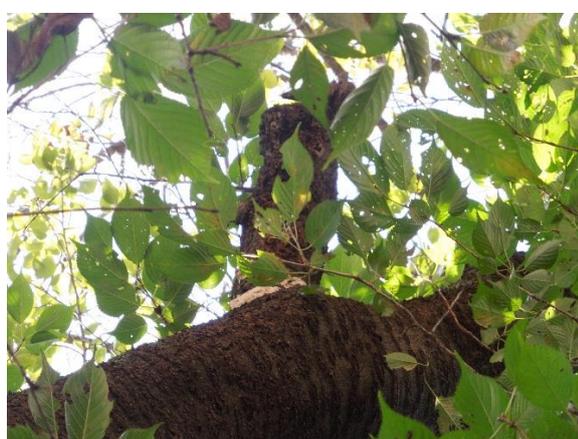
No. 226 の蟻巣



下草に隠れた N62



No. 942 についていた虫



No. 201 のシイサルノコシカケ



No. 899 のベッコウタケ



青テープの巻かれた桜樹 No. 228



赤テープの巻かれた柵内の雑木

以上